

樹木伐採や景観悪化を嘆く住民ら、町長と会合
「自然保護対策要綱」守られている?
軽井沢の自然環境や景観の悪化を危惧している建築家・山本秀代さんら別荘住民、町長と懇談した。住民らは、建物造成のため林が更地になつた場所や、塀に囲まれた別荘など、町内で撮影した写真を見せながら「自然保護対策要綱が守られていない」と現状を訴えた。

子どもの頃から軽井沢で過ごし、20年前から別荘を所有している山本さんは、7年ほど前に早稲田大学教授で都市デザイナーの卯月盛夫さんと「軽井沢景観研究会議」を軽井沢大賀ホールで開催したことがある。現町長の藤巻進さんも当時、観光協会長として参加していた。町が自然保護の基準を定め



軽井沢の自然環境や景観の悪化を危惧している建築家・山本秀代さんら別荘住民、町長と懇談した。住民らは、建物造成のため林が更地になつた場所や、塀に囲まれた別荘など、町内で撮影した写真を見せながら「自然保護対策要綱が守られていない」と現状を訴えた。

町民の一人は「以前は木をた「自然保護対策要綱」によると、既存樹木については「できる限り残存させるとともに、建築物等の周囲に植栽を施し、自然環境の保護等に支障のないものであること」と定めて

生活環境課の担当者は「様々な条件があるので周囲の状況を見ながら、自然への調和も含めて必要な植栽をお願いしている」と要綱の趣旨を伝えていることを話した。町長は「生活環境課はいつも『要綱はお願いという形で、協力をしてもらっているのが現状。指導を強化することによる弊害もある』と話した。

山本秀代さんは今回の懇談会について「軽井沢町は欧州

に比べると、環境や自然景観

に対する配慮が遅れている。

軽井沢大賀ホールで開催したことがある。現町長の藤巻進さんも当時、観光協会長として参加していた。町が自然保護の基準を定め

素晴らしいと評価されている自然保護対策要綱があるのに、なぜ、軽井沢の環境が悪化していくのかを考える必要があるのではないか」と疑問を投げかけた。

樹木伐採や景観悪化を嘆く住民ら、町長と会合
「自然保護対策要綱」守られている?
軽井沢の自然環境や景観の悪化を危惧している建築家・山本秀代さんら別荘住民、町長と懇談した。住民らは、建物造成のため林が更地になつた場所や、塀に囲まれた別荘など、町内で撮影した写真を見せながら「自然保護対策要綱が守られていない」と現状を訴えた。

町民の一人は「以前は木をた「自然保護対策要綱」によると、既存樹木については「できる限り残存させるとともに、建築物等の周囲に植栽を施し、自然環境の保護等に支障のないものであること」と定めて

生活環境課の担当者は「様々

な条件があるので周囲の状況

を見ながら、自然への調和も

含めて必要な植栽をお願いし

ている」と要綱の趣旨を伝え

ていることを話した。町長は

「生活環境課はいつも『要

綱はお願いという形で、協力を

してもらっているのが現状。指

導を強化することによる弊

害もある」と話した。

山本秀代さんは今回の懇談

会について「軽井沢町は欧州

に比べると、環境や自然景観

に対する配慮が遅れている。

軽井沢の自然環境や景観の悪化を危惧している建築家・山本秀代さんら別荘住民、町長と懇談した。住民らは、建物造成のため林が更地になつた場所や、塀に囲まれた別荘など、町内で撮影した写真を見せながら「自然保護対策要綱が守られていない」と現状を訴えた。

町民の一人は「以前は木を

た「自然保護対策要綱」によ

ると、既存樹木については「で

きる限り残存させるとともに、

建築物等の周囲に植栽を施し、

自然環境の保護等に支障のな

いものであること」と定めて

いる。

町民の一人は「以前は木を

た「自然保護対策要綱」によ

ると、既存樹木については「で

きる限り残存させるとともに、

建築物等の周囲に植栽を施し、

自然環境の保護等に支障のな